

平成26年7月三木市教育委員会（定例会）会議録

◇ 日 時

- 1 開 会 平成26年7月16日（水）午後2時00分
- 2 閉 会 平成26年7月16日（水）午後5時20分

◇ 場 所 三木市役所 5階 大会議室

◇ 会 議

- 1 開 会
- 2 会議録署名委員の指名
- 3 会議録の承認
- 4 審議事項
 - (1) 議決事項
議案第6号 平成27年度から平成30年度に使用する小学校教科用図書の採択について
 - (2) 協議事項
協議事項5 平成25年度の三木市教育委員会の事務の管理及び執行の状況に関する点検・評価報告書（案）について
協議事項6 平成26年度全国学力・学習状況調査結果の公表について
 - (3) 報告事項
- 5 その他
 - (1) 次回定例教育委員会の開催日時について
- 6 閉 会

◇ 会議に出席した者の職氏名

教育委員	1番	教 育 委 員 長	里 見	俊 實
	2番	教育委員長職務代行者	水 島	慶 子
	3番	教 育 委 員	稻 見	秀 穂
	4番	教 育 委 員	井 口	徹
	5番	教育委員（教育長）	松 本	明 紀
事務局		教 育 部 長	山 本	公 大

教育総務課長	石田	寛
教育環境整備課長	貞松	保夫
学校教育課長	野口	博史
文化スポーツ振興課長	松村	正和
教育センター所長	大東	豊
図書館長	告野	幹也
市民協働課副課長	高嶋	信行
人権推進課長	寺本	修司
学校教育課主査	小林	俊治
教育総務課主査	五百蔵	一也
教育総務課主事	八代醜	典之

傍聴者 7人

◇ 会議内容

1 開 会

委員長が、平成26年7月三木市教育委員会定例会の開会を宣言した。

2 会議録署名委員の指名

委員長が、本日の会議の会議録署名委員に、松本教育長と水島委員長職務代行者を指名した。

3 会議録の承認

委員長が平成26年6月定例会（16日開催）の会議録について委員に諮ったところ、稲見委員から一部修正を求める発言があった。委員長がこのことについて委員に諮り、全員一致で承認された。また、平成26年6月臨時会（19日開催、20日開催）の会議録について委員に諮り、全員一致で承認された。

4 審議事項

(1) 議決事項

【議案第6号】平成27年度から平成30年度に使用する小学校教科用図書の採択について

○野口学校教育課長が次のように説明した。

平成27年度から平成30年度に使用する小学校教科用図書の採択については、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第13条第1項及び第4項並びに三木市教育委員会の権限に属する事務の一部の教育長への委任等に関する規則第2条第17号の規定により、別添のとおり決定することについて、委員会の議決を求めるものである。

はじめに、採択に係る経緯について報告する。平成26年4月に北播磨5市1町の教育長が出席して、協議を行った。5月には、平成26年度第1回北播磨採択地区協議会が開催された。これには北播磨5市1町の教育長、地区内の校長、教頭、教諭、保護者の各1名が出席しており、協議会の規約、日程と、次の6月に開かれる調査員会における調査員の人数及び各市町の割当て等について協議を行った。6月には計3回、教科用図書調査員会を開催しており、具体的に各教科書の内容を調査した。調査員は教科ごとに計52名が選ばれており、三木市からは全教科各1名の調査員が出席している。また、6月13日から27日まで、三木市立教育センターで教科用図書の法定の展示会を行い、148名の方が閲覧に来られた。7月には第2回の北播磨採択地区協議会が開催された。第1回の出席者及び調査員を代表して各教科2名が出席し、調査員会における調査の報告と、採択に係る協議が行われた。この協議を受けて採択推薦書が、7月17日に三木市教育委員会宛に送付されている。

次に、採択推薦の理由について説明する。

採択推薦書を見ると、いくつかの観点で選ばれていることがわかる。1つ目は情報量が適当であるか、という点である。2つ目は学習の深まりという観点が考慮されているか、という点である。国語を例にとると、1つ目に短い説明文があって、そこで基礎となる形式を学んで、その次にやや長い説明文を実際に読み解いていくことができる等の工夫がなされている。3つ目は、兵庫県に係る情報が豊富であるか、という点も考慮されている。社会の教科書を例にとると、例えば立杭焼、

コウノトリの郷、姫路城等、兵庫県の伝統文化について学ぶことができるようになってきている。4つ目は、他教科や、次の課程との関連性に対する配慮である。理科であれば、数学との関連性、また、次のステップ、次の学年においてどうことを学んでいくかという点についても記述があることが重視されている。さらに、今日的な課題として、東日本大震災に係る情報についても考慮されている。生活の教科書では、防災という視点から、震災が取り上げられているか、という点が考慮されているようである。また、全体を通して、ユニバーサルデザインに配慮されているか、という点も推薦のポイントになっている。

(里見委員長) 調査員会の調査員はどのように選ばれているのか。

(野口学校教育課長) 三木市の場合は教科ごとに教科部会、研修部会があり、その部会の中から、経験等を考慮して推薦していただく形をとっている。

(稲見委員) 以前の会議でも尋ねたが、地区協議会の議事録は公開されないのか。また、議事録を公開してほしい旨をこれまでも発言してきたが、そういう意見があったことを教育長から協議会の中で発言していただいたのか。

(松本教育長) 協議会の規約と採択推薦書については、事務局への公開請求による公開の対象となるが、議事録については公開されない。協議会については、推薦に係る議事となるため、議事録は公開しないこととなっており、それを公開すべきという意見は申しあげていない。

(稲見委員) 今度中学校の教科書についても採択があると思うが、協議会においてどのような協議がなされたかについて、少なくとも各市の教育委員会は公開すべきではないか。そういう意見があるということは、伝えていただきたいと思う。

(松本教育長) 今後一つの意見として伝えるよう検討する。

(里見委員長) 協議会や調査員会の中で、特に問題となった論点等は

あったか。

(野口学校教育課長) まず形式的な部分については、教科書がA4サイズで紙質も非常に良いため、教科書自体が重たくなっている。そのため、上下巻に分かれているものが良いのではないかという点について議論があった。

(松本教育長) 協議会において、領土問題に関する記述に各社特徴があるかを尋ねたが、どこも記述の仕方については大差ないとの報告を受けている。また、生活科で推薦を受けた教科書には小さいハンドブックのようなものがあるが、小学1・2年生くらいの児童は、それを野外活動等で持ち運ぶことは負担になるのではないか、失くしてしまうのではないかという意見があった。しかし、軽いので教科書よりも負担がないことや、バインダーに挟んで持ち運びができるようになっており、問題ないとの説明を受け、納得した次第である。

(井口委員) 先ほど国語の教科書を例に推薦のポイントを説明されていたが、学習の深まりという点において、推薦を受けている光村はどのような点が良かったのか。

(野口学校教育課長) 説明文の学習において、第一教材、第二教材を用意し、学習を深められるような独自の工夫をしている。

(稲見委員) 教科書の選定について、専門家でないとわからない部分はあるし、教育委員会が一から取捨選択していくことは事務的に難しいが、社会的に大きな議論になっていること、例えば歴史認識の問題等については、やはりレイマン・コントロールが求められる部分があると考える。

それから、展示会については、どこまで公開されているのか。

(野口学校教育課長) 展示会については、どなたでも閲覧していただけるようになっている。

(里見委員長) 応用の学習が課題と言われているが、その点について

何か具体的な議論はあったか。

(野口学校教育課長) 推薦を受けた図書については、「学びをいかそう」、「もっとれんしゅう」のページが充実しており、発展的・補充的な学習に関する内容が豊富である点が評価されている。

委員長が、候補となった教科用図書の閲覧を提案し、10分間の閲覧時間を設けることとし、各委員が閲覧した。

(稲見委員) 教育長が言われたとおり、領土問題について、各社同じような記述になっていた。全く同じというのが本来のあり方なのか、それとも教科書会社によって違いがあるべきなのかは一概に言えないが、こういう社会的な議論が含まれることについて、推薦書を通して決定を求める以上は、少なくとも推薦に至った協議の内容を公開するのが筋ではないか。

(里見委員長) こういった議論が教育委員会に出ていることは、しっかり記録として残してほしいと思う。我々は今回領土問題のことを取り上げたが、原発のこと、歴史認識のこと、他にも色々議論しなければならないことがある。1つの市で議論しても仕方ないという見方もあるかもしれないが、やはり各市町には市町としての、地方には地方としての意見があるわけだから、それは大事にしていかなければならない。各市の教育委員会の意見が全く教科書の推薦に反映されなければ、教科書採択における教育委員会の役割そのものに疑問が生じることになる。基本的にはこれまでのやり方を尊重するが、今後も議論が必要だと考える。

(稲見委員) 指導にあたる先生が、使いやすい、使いにくいという点も推薦のポイントになっているのか。

(野口学校教育課長) その点も考慮されている。情報量が適当であることと、基礎と発展の区別がわかりやすくなっているものは総じて使いやすく、高い評価を得ている。

委員長が議案第6号について採決を行い、全員一致で原案のと

おり可決された。

(2) 協議事項

【協議事項 5】平成25年度の三木市教育委員会の事務の管理及び執行の状況に関する点検・評価報告書（案）について

○石田教育総務課長が次のように説明した。

平成25年度の三木市教育委員会の事務の管理及び執行の状況に関する点検・評価報告書（案）について、昨年度、各委員、外部評価委員の方からの指摘を中心に、今年度特に加筆修正した項目について、説明する。

まず、前文にあたる“はじめに”の部分では、三木市教育の大きな柱である、①子ども一人一人の力を伸ばす、②魅力ある学校園づくり、③生涯学習と文化振興事業の推進という項目に沿って、特に平成25年度に取り組んだ事業を中心にまとめている。例えば、確かな学力向上プロジェクトや教職員研修、新設図書館の建設、NHK大河ドラマ「軍師官兵衛」の放送を契機として取り組んだ事業など、平成25年度の特徴について、総括的に記述している。

また、教育委員会会議以外の活動として、主な参加行事・研修等を表にまとめている。

昨年度、幼児期の教育の充実について、幼小連携に関する記述がないとの指摘があったため、その点追加している。幼保一体化に係る取組については、平成25年度の重要な取組として、新たな項目として追加している。

神戸大学と連携してすすめている「確かな学力向上プロジェクト事業」については、昨年度、具体的な協議内容がわからないという指摘があったため、協議内容について、簡潔に記載している。

教職員のメンタルヘルスケアについては、これまで、教職員の資質・指導力の向上の中の1項目として記載してきたが、評価委員より、学校の組織の問題ではないかとの指摘があったため、学校の組織力の向上の中の1項目として記載している。

生きがいを実感できる生涯スポーツの振興については、三木市スポーツ振興ビジョンとの関連において事業を整理し、記述している。

また、全体として表やグラフを多用することで、より具体的でわかりやすいものとなるようにまとめている。

なお、外部評価委員については、昨年度と同様、兵庫教育大学大学院客員教授の廣岡先生と京都教育大学教授の竺沙先生に依頼する予定である。

(里見委員長) 内容については8月にもう一度協議をする予定となっている。今回は大きな視点で意見を出してほしいと思う。

(水島委員長職務代行者) 全体的に具体的になって読みやすくなっている。

(稲見委員) 幼保一体化とか、今も、また今後も大きな動きのある事業についての記述が少し薄いのではないか。今後のことも踏まえて、もう少し厚く記述すべきではないか。

(井口委員) 施策の点検・評価のそれぞれの項目のはじめに取組の目的を記載している。目的というのは将来への約束であり、「何々をします」という意思の表明である。今回の案を見ると、ほとんど「何々しました」という記述になっているが、これは目的ではなく取組の概要ではないか。記述について再考が必要だと思う。

また、昨年度、外部評価委員の方が、成果についての記述がないと指摘されていた。私はそうは思わないが、評価委員の方によりわかりやすくするために、取組の概要、成果、課題をもっと明確に区別して記載してはどうか。

(石田教育総務課長) 成果や課題について、一般の方に対してはもちろん、外部評価委員に対しても、よりわかりやすい記載となるよう今後検討する。

(稲見委員) それぞれの項目の中で、取組の概要や成果については、ア、イ、ウという順番で記載されているが、この順番には何か意味があるのか。重要度に応じた順番なのか。

(石田教育総務課長) 教育振興基本計画及び三木市教育の基本方針の整理番号に基づいている。重要度の高い順番に記載しているわけではない。

(里見委員長) 読み手としては、順番に体系的な流れがあったほうが読みやすいのではないか。

(石田教育総務課長) 各項目の記載順序について、再度点検し、再提出する。

(里見委員長) 自己評価の記載が不足している。特に冒頭“はじめに”の部分は、一番最初に見ていただくわけだから、今回の点検・評価の全体像がわかるようにする必要がある。平成25年度はどういう取組をして、どういう成果があり、そしてどういう課題があるかという部分を概括的に記載すべきである。意見や意思の表明がない文章では、インパクトもないし、読み手に訴えかけることができない。

それから、平成25年度は中学生の転落という重大な事案があった。これについては別途項目を設けて記載すべきである。事故調査委員会による調査やアンケート調査等、平成25年度に行なったことを踏まえて、今後こういった事故が起こらないように取り組んでいくということをしっかり記載すべきである。

(石田教育総務課長) “はじめに”の記載については、自己評価に係る部分を追加する。

また、転落事故については、今回の案を作成していた折には、まだ事故調査委員会による調査が継続中であったため、記載が難しかったという事情がある。ただ、現在においては、既に事故調査委員会による調査も終了しているので、係る調査結果も踏まえて記載し、再度提出させていただく。

【協議事項7】平成26年度全国学力・学習状況調査結果の公表について

○野口学校教育課長が次のように説明した。

平成25年11月の定例教育委員会において、公表の方針について議決をいただいたが、その中で、国の基本的な考え方等に変更がある場合は、それに応じて再提案することとなっていた。平成26年度の国の要領について、一部変更があったため、その部分について

て、協議をいただきたい。

まず、平成25年度実施要領からの変更点について説明する。

平成25年度においては、市町村教育委員会は、学校の状況について個々の学校名を明らかにした公表は行わないこととされていたが、平成26年度においては、市町村教育委員会は、学校の状況について、それぞれの判断において、公表することが可能とされた。また、個々の学校名を明らかにした公表を行うことについては、その教育上の影響等を踏まえ、必要性について慎重に判断することとされた。これを受けて、都道府県教育委員会における公表についても、市町村教育委員会の同意を得た場合、市町村名または市町村が設置管理する学校名を明らかにして公表を行うことが可能となった。

以上の変更点を踏まえて、三木市教育委員会においては、個々の学校名を明らかにした公表はしないこととする。理由としては、調査結果が学校における教育活動の一側面であるにもかかわらず、学校全体の評価となってしまう、まちがった序列化を招くおそれがあるからである。また、調査結果は学力向上や今後の改善方策に資するべきものであるのに、結果だけに目を向けた、調査目的から外れた取組がなされる可能性も憂慮される。さらに、児童生徒に劣等感を抱かせるなど、教育上悪影響をあたえる可能性もあるため、個々の学校名については公表しない。市全体の調査結果については、概算値を公表し、一部の問題については、平均正答率の実数値を公表することとする。

(里見委員長) 公表の時期はいつか。

(野口学校教育課長) 国が公表するのが8月25日の予定で、その後分析を行うため、早くても秋から冬の予定である。

(里見委員長) 個々の学校名を明らかにした公表はしない、また、市全体の調査結果については概算値のみ公表することについて、何か反応はあるか。実数値を公表すべきとの意見はあるか。

(松本教育長) 実数値を出すべきとの意見や要望があるという報告は受けていない。

近隣では明石市が昨年度実数値を公表している。また、高砂市、

加古川市では市民から情報公開請求が出ていると聞いている。

(稲見委員) 学校名を公表すると、まちがった序列化を招くとのことだが、先生が公表結果を励みにしたり、また、創意工夫していくことが大切なのではないか。個人が特定される少人数の学校は除いて、成績の良い学校は発表して、広報みきに載せてもいいと思う。一番良くないのは、「首長は説明責任を果たしてない」、という批判が出てから公表するパターンで、教育委員会として公表できる部分は公表していくべきである。

(松本教育長) 数値を公表するかは別にして、学校の組織的な学力向上のための取組等は公表する意義が大きいと考えている。

(里見委員長) 正答率の高い問題、低い問題を抽出して正答率を公表しているが、ごく一部の問題だけを抜き出して公表することに本当に意味があるのか。

(野口学校教育課長) ご指摘のとおり、昨年度の調査結果の公表については、正答率の高い問題、低い問題について、国の平均正答率と比較することのみで分析が終わっている。現在事務局では、正答率の低い問題について、どのように改善を図っていくか、どのような指導をしていくかということをも具体的に示した公表とすることを検討している。よく学力調査結果の公表は、説明責任として語られることが多いが、役割はそれだけではない。現状の課題に対して、今後どのように取り組んでいくのか、教育委員会からのメッセージ性のあるものを作成していきたいと考えている。

(里見委員長) 大いに賛成である。点数や結果だけを公表しても、あまり意味はない。その結果を今後どのように生かすのか、その点が見える公表としてほしい。

(3) 報告事項

ア 教育環境整備課報告事項について

○貞松教育環境整備課長が次のように報告した。

平成26年度の奨学生の決定について報告する。

本年度は345名の申請があり、うち332名を三木市教育委員会奨学規則に基づき決定した。内訳としては、国公立高校が207名、私立高校が22名、大学が76名、専修・各種学校が27名となっている。奨学金の給付予定額は2,919万6千円で、予算に対して57万6千円不足しているが、補正予算で対応する予定である。

(里見委員長) 奨学金の効果や成果についてはどのようになっているか。

(貞松教育環境整備課長) 給付対象者については、ほとんどの方が進級または卒業しているので、結果としては、学業の充実につながっていると考える。

(里見委員長) 貧困が原因で、これから教育格差の問題がますます大きくなっていく。本来は国でやるべき事業だと思うが、市独自で行っているわけだから、抽象的なものではなく、もっと具体的に事業に対する評価が必要だと考える。

(松本教育長) 現在評価ができていない状況である。奨学金を支給した子どもが、その後どの程度三木市で就業しているかについては、調査する必要がある。また、窓口においても、今後情報収集していきたい。

(里見委員長) 特に若者の雇用や定住にも係ってくる施策である。奨学金の事業によって、どのような効果が出ているか、どのように評価されているかを、しっかりと把握できるよう、今後してほしい。

(稲見委員) 非常に景気の悪かったときに、奨学金の対象を拡大すべきではないかという議論もしたと思うが、現状はどうか。

(貞松教育環境整備課長) 現在支給対象については、世帯構成人数ごとに基準所得を定め、その数字に適合するかを判断している。過去の実績を見ると、平成24年度が313名、平成25年度が322名、平成26年度が332名ということで、年2%ほど増加

してきている状況であり、生活が困窮している方の申込が少しずつではあるが、増加してきていると認識している。

イ 学校教育課報告事項について

○野口学校教育課長が次のように報告した。

7月8日に第4回の定例校園長会を行った。

また、小学校の自然学校が一とおり終了した。春に運動会を行った口吉川、豊地、自由東については、9月に実施する予定である。

教育委員会の計画指導訪問も、各学校について予定どおり進んでいる。

6月23日に臨時の校園長会を開催し、市立中学校での転落に係る事故調査委員会の報告書を受けての今後の取組について通知を行った。事故の未然防止に向けて、健康観察の強化や、子どもを一人にしない見守り体制の強化等について、通知している。また、三木市教職員危機管理ハンドブック「いのち、その輝きを守るために」の内容についても、今回の事故を踏まえて改訂中である旨伝えている。

今後の予定として、各学校園の1学期終業式が7月18日となっている。また、定例校園長会を8月6日に予定している。

ウ 教育センター報告事項について

○大東教育センター所長が次のように報告した。

教育相談が、電話165件、面接65件の計230件あった。青少年悩みの相談は、電話7件、面接48件の計55件あった。不登校対策適応教室には4名の通級があり、6月26日に調理実習、7月1日におお陶遊館で陶芸体験を実施した。また、兵庫教育大学から1名の教育実習生を受け入れている。

今後の予定としては、「生徒指導の24の鉄則」、「自己有用感を育てる異年齢活動を学ぶ」等の専門研修講座を7月、8月に開催する。また、医師または指導主事による発達教育相談を7月17日と25日にそれぞれ行い、不登校適応教室については、1学期通級状況の報告を7月下旬に行う予定である。

青少年センターの事業については、子ども安全・安心の日の立番を2回、白ポストの回収を延べ8日間実施した。今後の予定としては、7月19日に北播磨補導委員連絡協議会統一活動として、補導委員全員による深夜補導を行うほか、7月26日は、みっきい夏まつり特別

補導を行う。

エ 文化スポーツ振興課報告事項について

○松村文化スポーツ振興課長が次のように報告した。

第3回の歴史ウォークを開催した。コースはホースランドパーク周辺付城跡で、58名の参加があった。下関市から来ていただいた方がおり、ホームページを見てご参加くださったとのことである。また、「三木合戦」をテーマにした、ふるさと三木の歴史学習を9小学校で実施した。7月13日には、歴史学者の渡邊大門氏を講師に迎えて、「軍師・竹中半兵衛の生涯 ～美濃時代から三木合戦まで～」と題した講演会を開催し、160名の来場があった。

三木市のスポーツ振興基金で実施した事業として、ソフトボール投げ及びウェイトリフティングで全国大会に出場する選手の激励会を7月9日に行なっている。ウェイトリフティングは、三木東高校の4選手が出場する。

今後の予定としては、第28回の三木市吹奏楽祭を7月20日に、夏休みこども歴史教室を7月25日及び8月1日に開催する。

(井口委員) 報告にはなかったが、故石田安夫氏の回顧展があったと思う。この方の「響き」という作品は、三木市にとって非常に重要な作品だと考えるが、市で購入するようなことは考えていないのか。

(里見委員長) これについては、非常に難しい課題があるのではないか。予算の問題や管理の問題もあるし、まず美術的な価値についての評価が必要になってくる。そういった評価機関は現在あるのか。

(松村文化スポーツ振興課長) 機関ではなく、複数の美術館の学芸員の方に評価していただくこととなる。故石田安夫氏については、三木市においてすでに評価されている方だが、一般的にはそれぞれの地域で活躍されている方については、評価が難しいということでは言われている。

(里見委員長) 評価の体制、また寄贈を受けることについての手順等

についても今後整えていかなければならない。事務局でよく検討してほしい。

(稲見委員) 平成26年度の国指定保存計画の計画書について、教育長に伺いたい。

(松本教育長) 1年度に2回委員会を開催する予定で、今年度は第1回目の委員会が、8月19日に実施予定である。計画書については、保存管理計画策定委員会が作成し、最終的には教育委員会が出すということになる。そのため、最終のまとめが2月か3月になるが、途中の協議の経過についても報告するよう文化スポーツ振興課長には指示しているところである。

オ 図書館報告事項について

○告野図書館長が次のように報告した。

新設図書館建設の進捗状況について報告する。

建築、電気、機械工事とも、工程どおり進捗している。書架等の備品の調達については、7月に入札を実施し、9月議会に契約締結議案を提出する予定である。

次におおとフェスについて報告する。6月19日に開館4周年記念として、貸出冊数を10冊から20冊に増冊した。6月21日から25日には、図書400冊、雑誌500冊のリサイクルを行った。図書館いどばた会議を6月22日に開催し、国立国会図書館の渡邊斉志氏に、連携ある図書館づくりをテーマにした講演をいただいた。

今後の予定としては、おはなし会、ストーリーテリング、だっこで絵本を例月どおり行う。また、夏休み中の児童を対象に、小学生のための調べ講座、子ども工作教室を開催する。工作教室については、人気があり、7月1日に広報で募集をしたところ、2日目には、定員の15名に達している。さらに、「ぬいぐるみのおとまり会」、「わくわく夜の図書館」も実施する。両イベントとも人気があり、既に定員に達している。図書・雑誌のリサイクルを三木市立図書館で、8月16日から8月31日まで行う。一人10冊以内で、図書の無償配布を行う。8月19、20、22日には、一日図書館員ということで、市内の小学5・6年生、中学生に図書の貸出返却や、カバーかけ等の仕事を体験していただく。8月1日から応募し、実施する予定である。

5 その他

(1) 次回定例教育委員会の開催日時について

委員長が、次回の定例教育委員会の開催予定日時について諮り、平成26年8月20日（水）、午後2時から開催することを決定した。

6 閉 会

委員長が、平成26年7月三木市教育委員会定例会の閉会を宣言した。